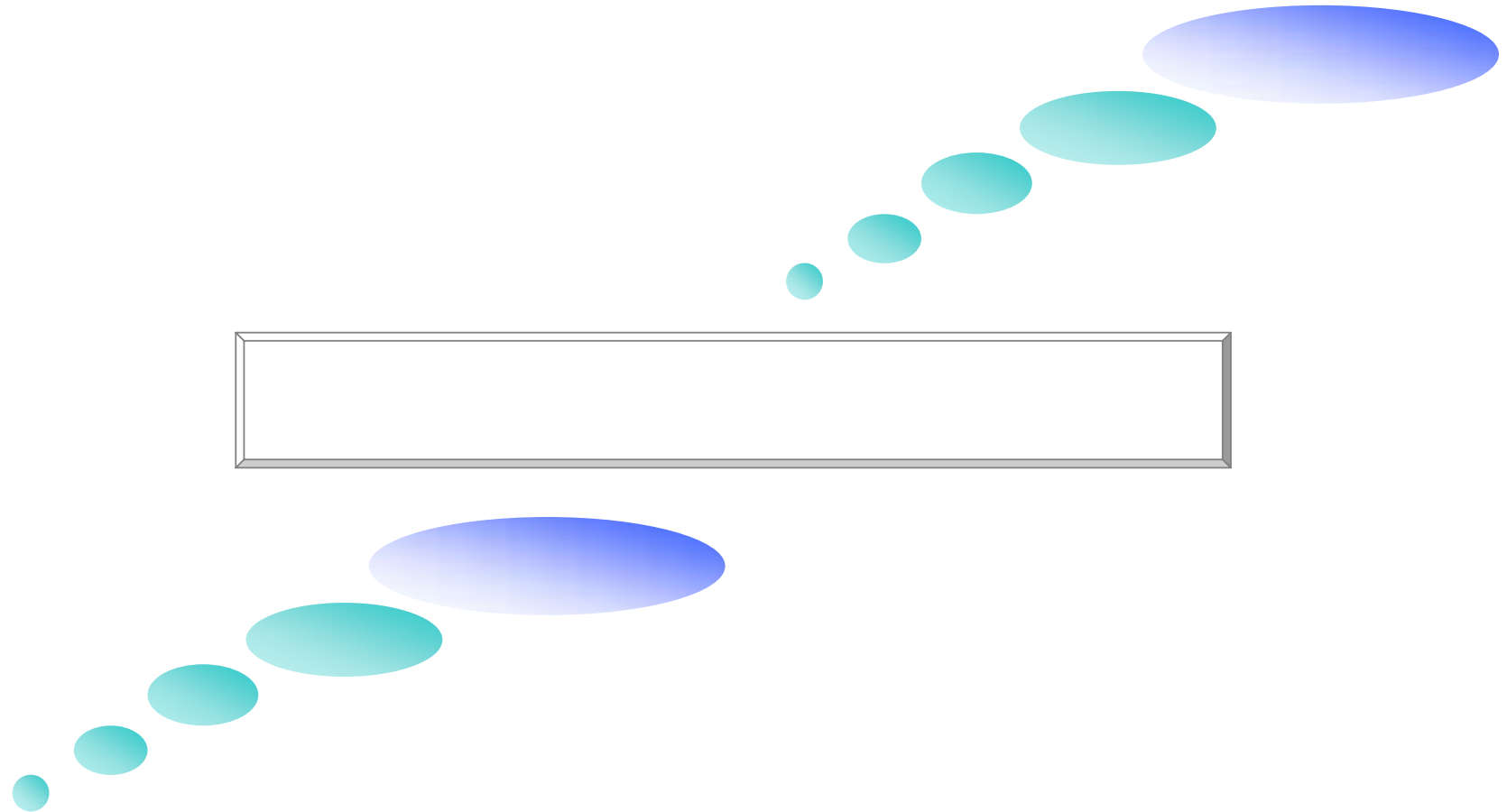


革新と創造の経営による新たな飛躍への挑戦

東レ株式会社
IR室長
神山 健次郎

東レグループの概要	p. 2-p. 8
プロジェクト Innovation TORAY 2010 (IT-2010)	p. 9-p.15
重点4領域における先端材料の拡大	p.16-p.36
東レの研究開発	p.37-p.39
参考情報	p.41-p.46



東レグループの概要

東レグループの概要

- 会社名： 東レ株式会社
- 設立： 1926年1月
- 資本金： 969億円
- 会社数： 東レ + 連結子会社144社
(国内67社、海外77社)
- 従業員数： 東レ 6,830人
連結ベース 36,553人

< 2007年3月31日現在 >

企業理念：「わたしたちは**新しい価値の創造**を通じて**社会に貢献**します」



代表取締役社長 榑原 定征

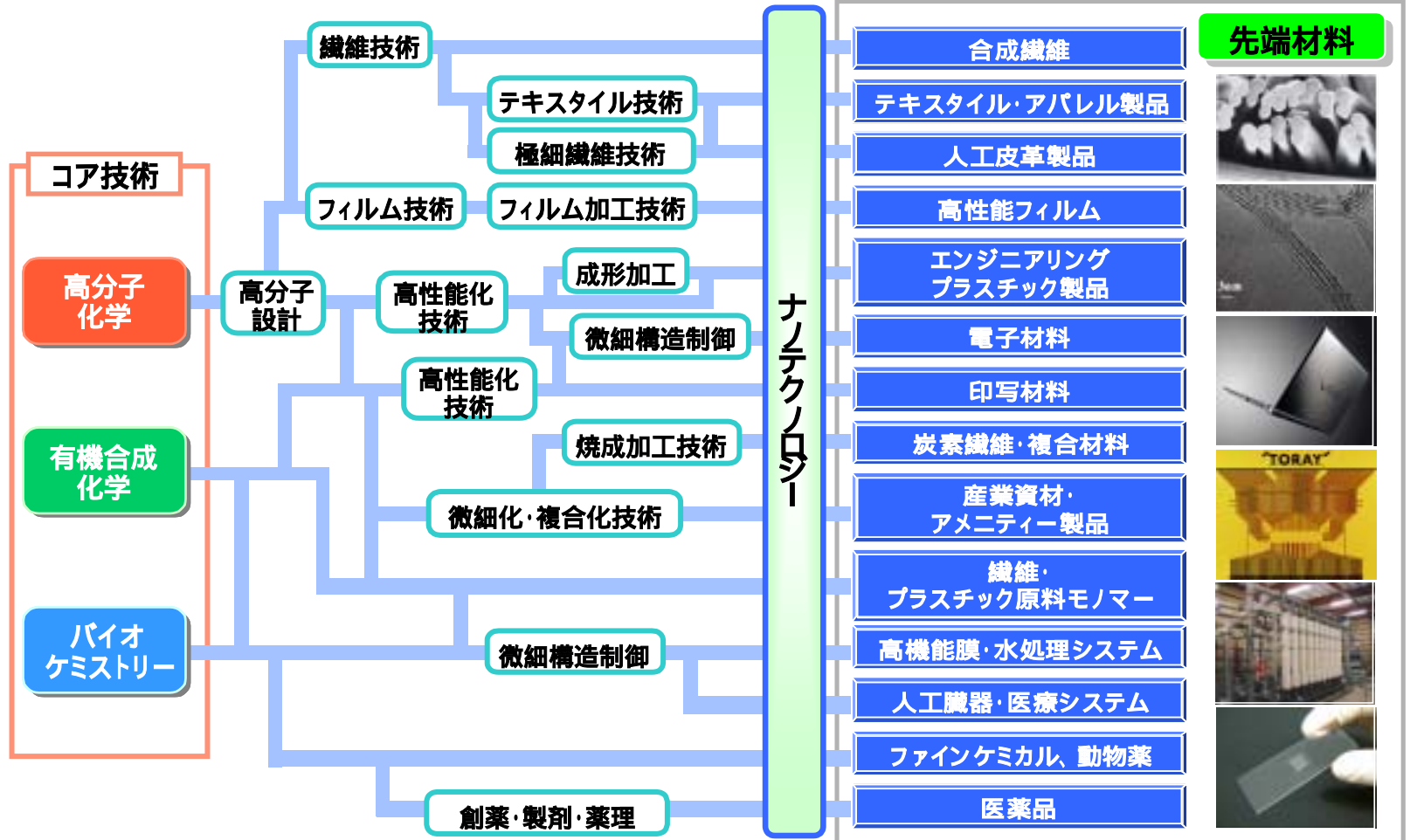
事業セグメント別売上高・営業利益

基盤事業の安定収益確保と戦略的拡大・育成事業の事業拡大・収益拡大に取り組んでいる

< 事業セグメント >	< 主な製品 >	07年3月期 連結売上高	07年3月期 連結営業利益
繊維		6,078 億円 (39%)	192 億円 (18%)
プラスチック・ケミカル		3,753 億円 (24%)	192 億円 (18%)
基盤事業			
情報通信材料・機器		2,638 億円 (17%)	335 億円 (32%)
炭素繊維複合材料		686 億円 (4%)	181 億円 (17%)
戦略的拡大事業			
環境・エンジニアリング		1,613 億円 (10%)	60 億円 (6%)
ライフサイエンス・その他		697 億円 (5%)	82 億円 (8%)
戦略的育成事業			
Total		15,465億円	1,024 億円

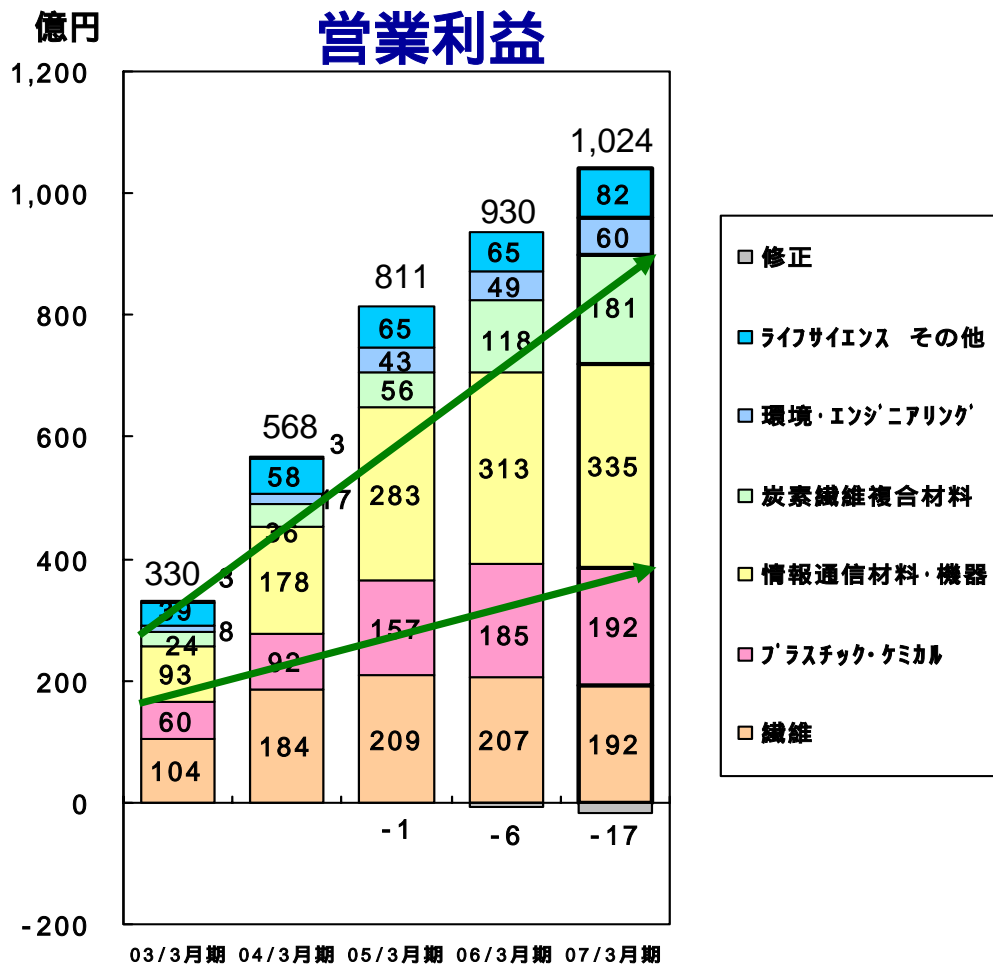
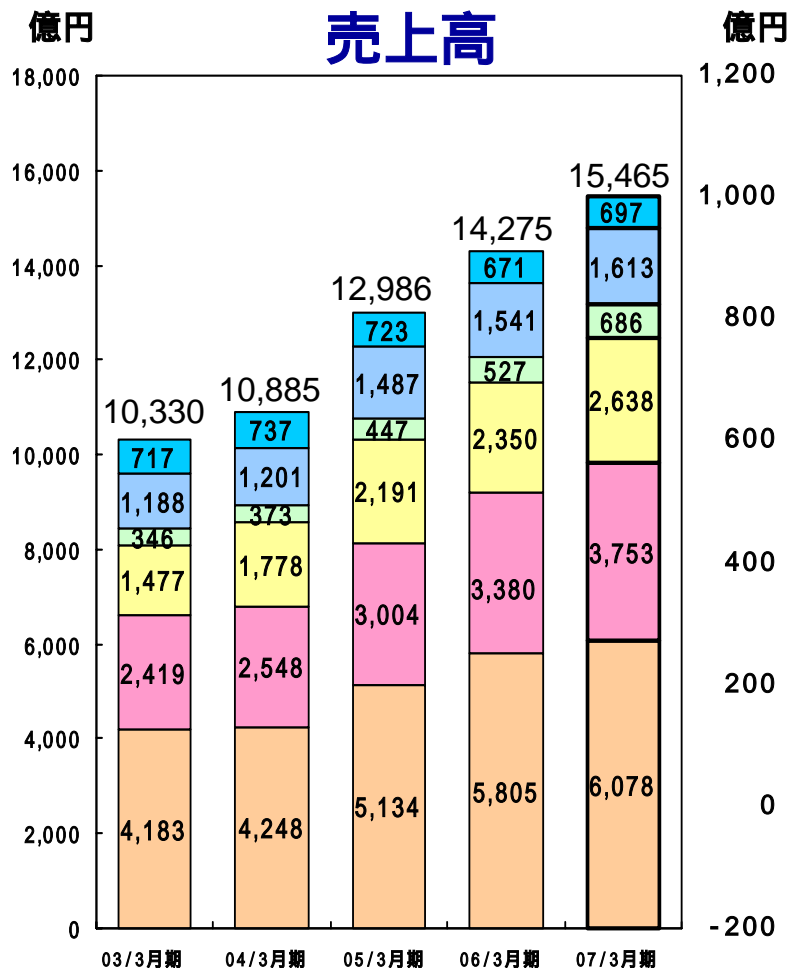
東レグループの技術フィールドと主要事業・製品

高分子化学、有機合成化学、バイオケミストリーという3つのコア技術をベースにナノテクノロジーとの融合で、基礎素材から加工製品まで幅広い事業を展開している。



事業セグメント別売上高・営業利益推移

戦略的拡大事業である情報通信材料機器と炭素繊維複合材料が営業利益拡大を牽引



- 修正
- ライセンス その他
- 環境・エンジニアリング
- 炭素繊維複合材料
- 情報通信材料・機器
- プラスチック・ケミカル
- 繊維

2008年3月期連結業績見通し

原燃料価格の高止まり等、厳しい事業環境を踏まえて、中間決算時の見通しに対し、通期の見通しを見直しもしながら、売上高は5年連続、営業利益は4年連続で、いずれも過去最高を更新する見通し

億円

	前年度実績	今回見通し	前年度実績比増減
売上高	15,465	16,400	+935 (+6.0%)
営業利益	1,024	1,040	+16 (+1.5%)
経常利益	975	930	-45 (-4.6%)
当期純利益	586	490	-96 (-16.3%)

中間決算時 見通し
16,600
1,080
1,010
560

ご参考：減価償却制度変更前	
今回見通し	前年度実績比増減
16,400	+935 (+6.0%)
1,100	+76 (+7.4%)
990	+15 (+1.5%)
530	-56 (-9.5%)

【ご参考：通期営業利益見通しに対する進捗率】

億円

	07年3月期	08年3月期
第3Qまで累計営業利益	641	633
通期営業利益 07年3月期は実績 08年3月期は見通し	1,024	1,040
第3Qまで累計の進捗率	62.6%	60.9%

想定為替レート：(2008年1月～2008年3月) 107円 / US\$、160円 / ユーロ
 想定原油価格：(2008年1月～2008年3月) 90US\$ / B(ドバイFOB)

2008年3月期事業セグメント別業績見通し

売上高は、全ての事業セグメントで前期比増収の見通し。営業利益は、フラットパネルディスプレイ関連部材の競争激化の影響を受けた「情報通信材料・機器」を除く全ての事業セグメントで増益の見通し

億円

	売上高				営業利益				中間期見通し・差異			
	07年 3月期		08年 3月期		07年 3月期		08年 3月期		売上高		営業利益	
	中間決算 時見通し	差異	中間決算 時見通し	差異	中間決算 時見通し	差異	中間決算 時見通し	差異	中間決算 時見通し	差異	中間決算 時見通し	差異
繊維	6,078	6,300	+222	(+3.7%)	192	195	+3	(+1.4%)	6,300	-	195	-
プラスチック・ケミカル	3,753	4,000	+247	(+6.6%)	192	195	+3	(+1.4%)	4,000	-	195	-
情報通信材料・機器	2,638	2,800	+162	(+6.1%)	335	295	-40	(-11.8%)	2,900	-100	320	-25
炭素繊維複合材料	686	900	+214	(+31.2%)	181	195	+14	(+7.8%)	900	-	200	-5
環境・インジニアリング	1,613	1,700	+87	(+5.4%)	60	95	+35	(+59.6%)	1,800	-100	100	-5
ライセンスその他	697	700	+3	(+0.4%)	82	85	+3	(+4.3%)	700	-	90	-5
(内医薬・医療材)	468	500	+32	(+6.8%)	48	50	+2	(+3.9%)	500	-	55	-5
計	15,465	16,400	+935	(+6.0%)	1,041	1,060	+19	(+1.8%)	16,600	-200	1,100	-40
消去又は全社					17	20	-3			-	20	-
連結	15,465	16,400	+935	(+6.0%)	1,024	1,040	+16	(+1.5%)	16,600	-200	1,080	-40



中期経営課題
プロジェクト Innovation TORAY 2010 (IT-2010)

IT-2010の位置づけと目標

2006年10月、「革新と創造の経営」による新たな飛躍を目指し、プロジェクトInnovation TORAY2010(IT-2010)をスタート

2002年4月

2006年4月

長期経営ビジョン

AP-New TORAY 21

AP-Innovation TORAY 21

中期経営課題

NT21

「体質強化・
守りの経営」
-危機から
の脱出-

NT-

「攻めの経営」
-新たな飛躍
への基盤作り-

IT-2010

「革新と創造の経営」
-新たな飛躍への挑戦-

先端材料で
世界のトップ企業
を目指す

2010年近傍
目標

売上高
18,000億円

営業利益
1,500億円

営業利益率
8.3%

ROA
8%

ROE
11%

2015年近傍
(イメージ)

売上高
23,000億円

営業利益
2,300億円

営業利益率
10.0%

ROA
10%以上

ROE
12%以上

2002年
4月

2004年
4月

2006年
10月

2010年
近傍

2015年
近傍

事業区分別基本戦略

基盤事業

繊維、プラスチック・ケミカル

グローバルな事業展開
New Value Creatorの推進
川下・加工型事業展開
「先端材料」の拡大
(自動車、環境・エネルギー等)

→ 安定的な収益基盤の確立

→ 基盤事業の高度化推進

戦略的 拡大事業

情報通信材料・機器、炭素繊維複合材料

成長市場(情報通信、自動車、航空機)への重点対応
経営資源の重点的投入

→ 収益牽引事業として積極的拡大

戦略的 育成事業

ライフサイエンス、環境(水処理)

2010年以降、次の収益拡大の柱とするために、
経営資源の傾斜配分
M&Aや事業提携

→ 戦略的に育成・拡大

持
続
的
発
展

高収益企業 への転換

- ・ 戦略的拡大事業(収益牽引事業)の拡大
- ・ 戦略的育成事業(次期収益牽引事業)の育成
- ・ 事業構造改革の推進
- ・ 先端材料の拡大

重点4領域 への 先端材料の 拡大

情報・通信・ エレクトロニクス

- ・ 薄型テレビ、携帯電話、パソコン等の急成長するデジタルネットワーク機器市場での事業拡大
- ・ お客様との垂直統合的連携による革新的製品の開発・拡販
- ・ 樹脂・フィルム素材から部材までの一貫事業による競争力強化

自動車・ 航空機

- ・ ハイブリッドカー、カーエレクトロニクス市場の拡大に対応した製品開発
- ・ 炭素繊維複合材料、エンブラの機能拡大による使用部位の拡張
- ・ 炭素繊維複合材料の需要増に対応した積極的な投資拡大

ライフサイエンス

- ・ 開発中新薬の確実な上市と更なる新薬パイプラインの拡充
- ・ 高付加価値医療材料の開発・上市
- ・ バイオ・ナノテクノロジーの融合による、革新的バイオツールの創出

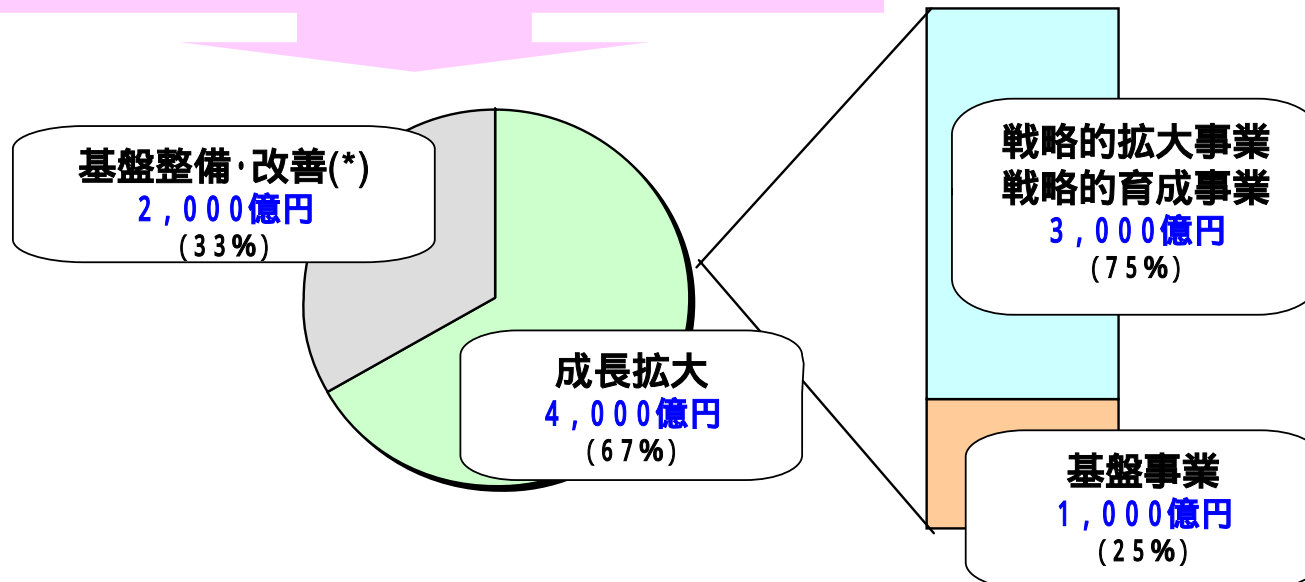
環境・水・ エネルギー

- ・ PLAなどの非石油系原料を使用した繊維、樹脂、フィルムの用途開拓
- ・ 高性能分離膜を中核とした水処理事業のグローバルな拡大
- ・ 太陽電池、燃料電池、風力発電などの次世代エネルギー対応素材の開発

設備投資戦略(戦略的拡大・育成事業への傾斜投入)

- 2006年度以降、5年間で6,000億円の設備投資を実行
- この内、成長拡大目的の設備投資配分は4,000億円(2/3)
- 成長拡大目的の投資の内、3,000億円(3/4)を戦略的拡大事業、戦略的育成事業に投入
- M & A投資資金を別枠とし、戦略的判断により追加投入

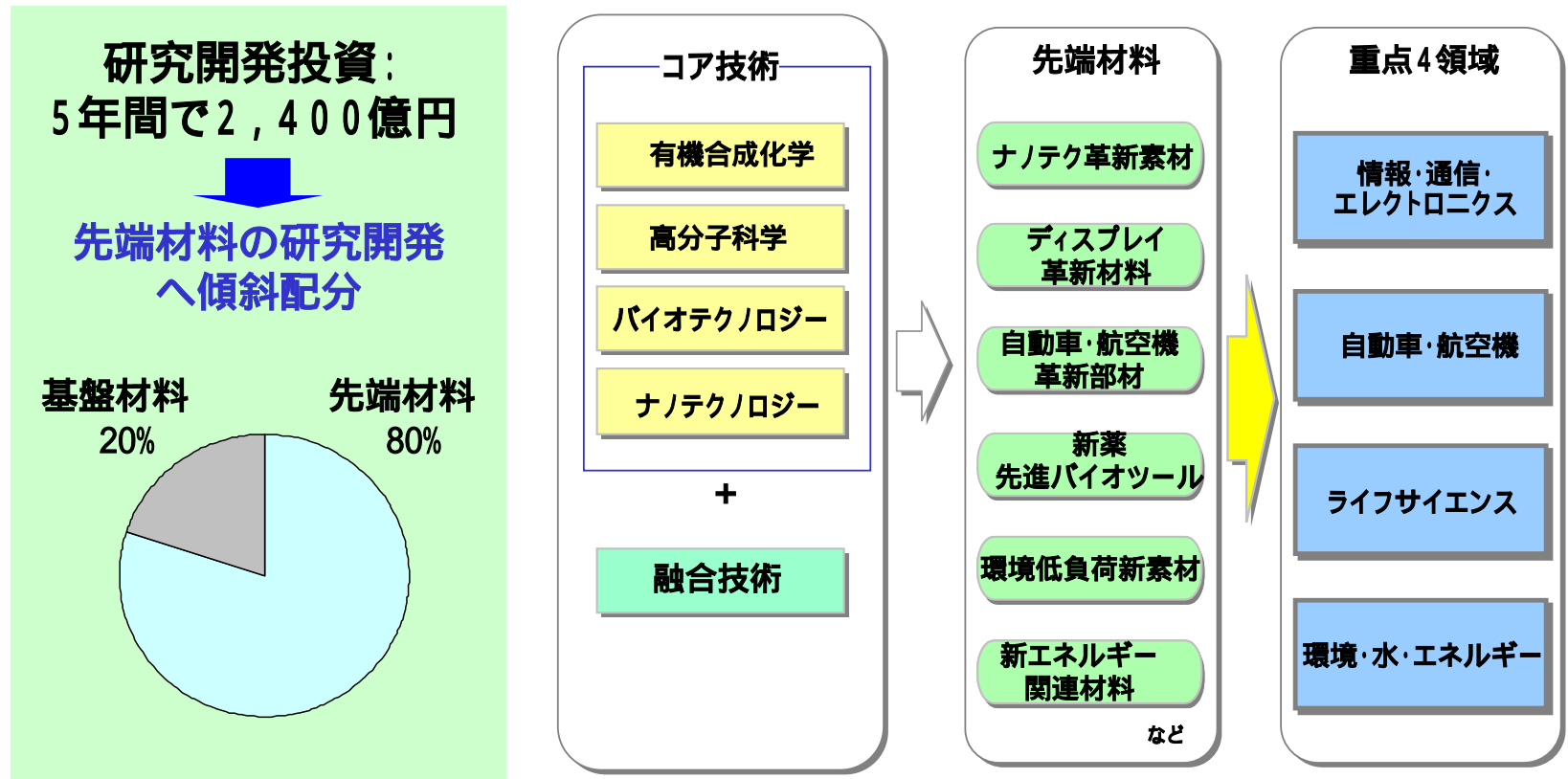
5年間で6,000億円の設備投資



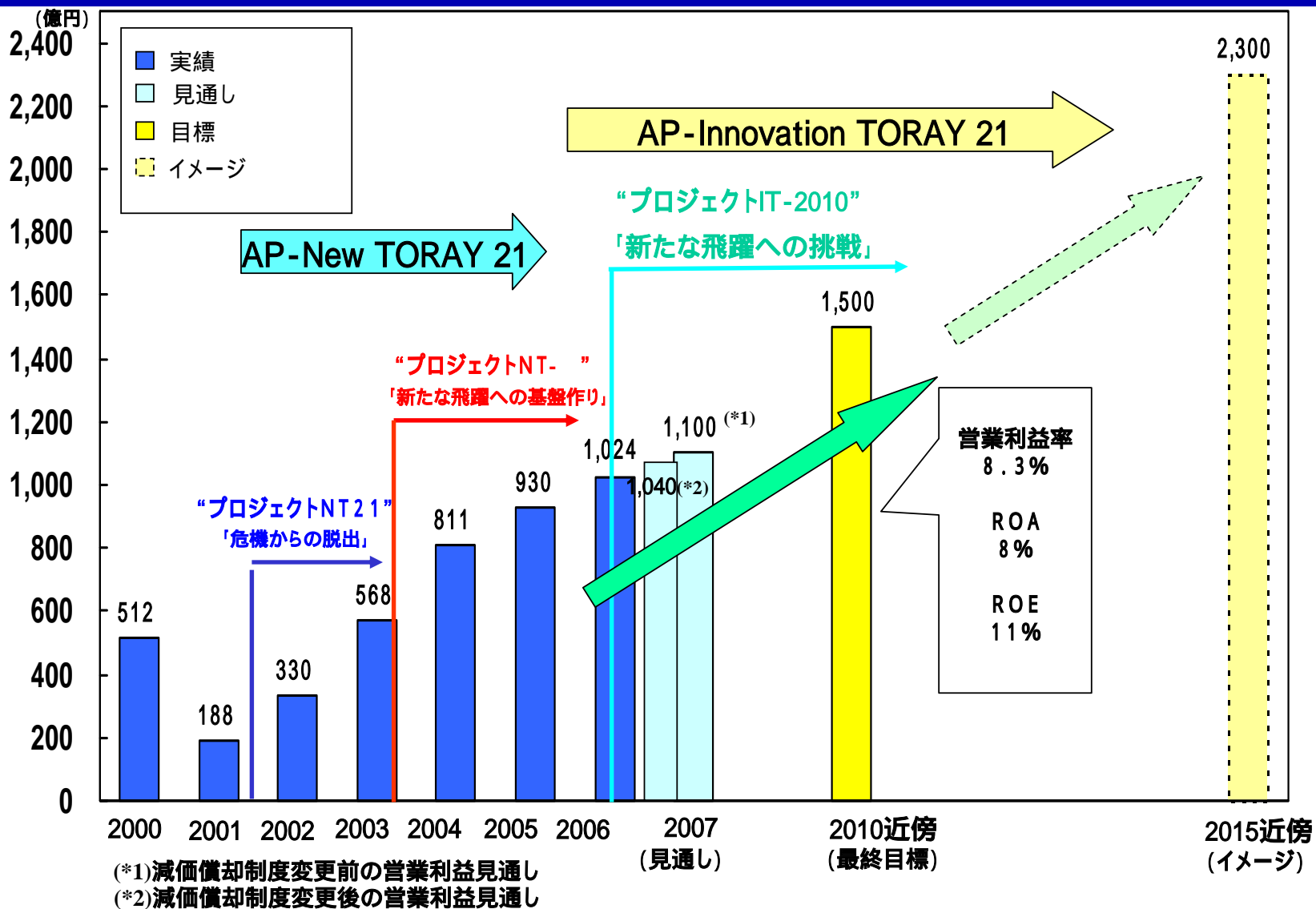
(*) 基盤整備・改善 = 環境・安全・防災・省人化・合理化・維持投資 他

研究開発投資戦略 (先端材料への傾斜配分)

- 2006年度以降、5年間で2,400億円の研究開発費を投入
- 研究開発戦力の約80%を先端材料に配分し、イノベーションを加速
- 4つのコア技術とその融合技術により、先端材料を開発、重点4領域に向け市場投入

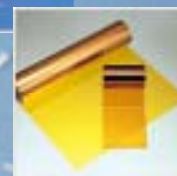
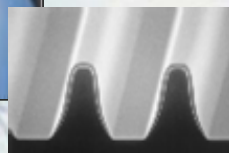
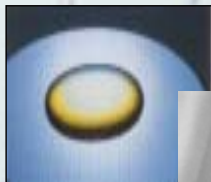
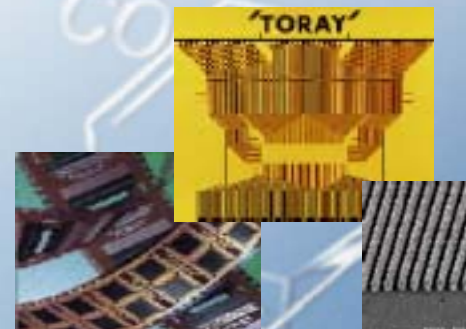
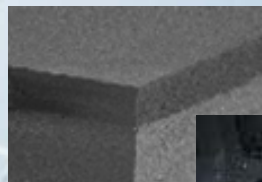
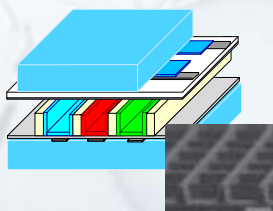


IT-2010の目標営業利益





重点4領域における先端材料の拡大



情報・通信・エレクトロニクス

情報通信材料・機器セグメントの製品は、様々な用途分野に展開し、安定的に成長。

情報通信材料・機器セグメント
売上高 2,638億円
営業利益 335億円
(07年3月期)

機器他 (21% 543億円)

<製品例>

液晶カラーフィルター製造装置



液晶用半導体実装装置



記録材料 (18% 487億円)

<製品例>

ポリエステルフィルム



バラ系アラミドフィルム

電子部品・半導体・回路材料 (33% 867億円)

<製品例>

回路材料

(COF用メッキ2層材料)



回路材料 (TAB テープ)



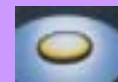
回路材料

(FPC用銅張フィルム(KCC))



半導体関連材料

(ポリイミドコーティング材料等)



ポリエステルフィルム (離型フィルム等)

ディスプレイ材料 (28% 741億円)

<製品例>

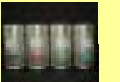
ガラスディスプレイパネル(PDP)用材料
(背面板用ペースト材料)



液晶カラーフィルター
(中型・小型に特化)

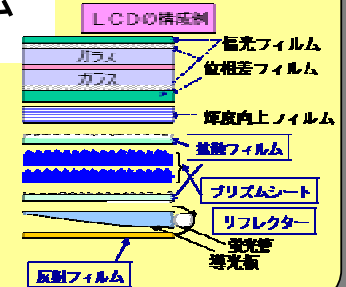


液晶カラーフィルター用ペースト材料
(ブラックマトリクス、平坦化膜等)



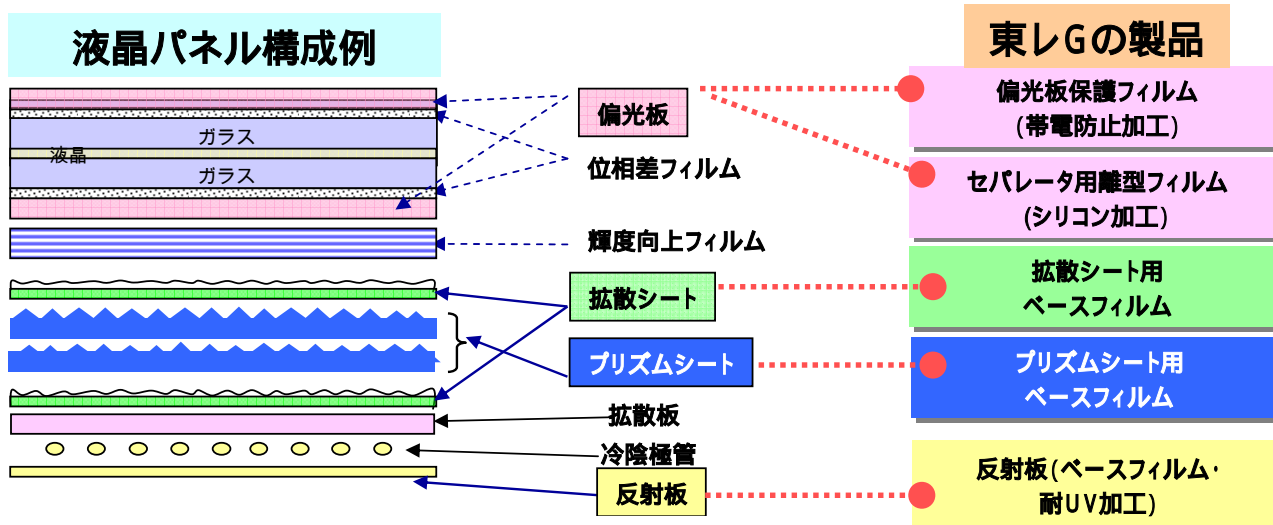
ポリエステルフィルム
(反射フィルム等)

保護フィルム

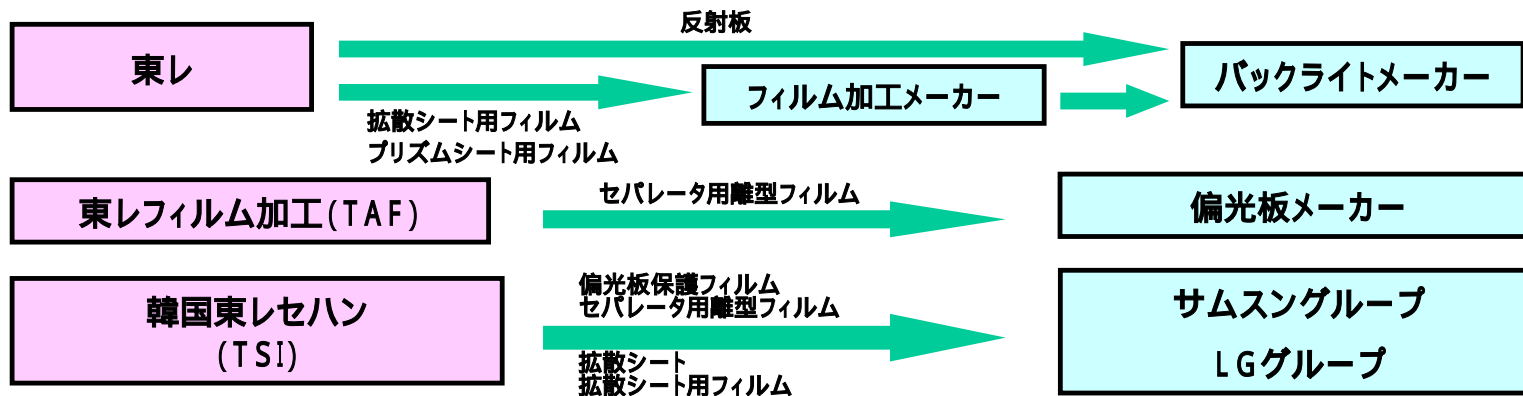


()内は
07年3月期
通期実績

液晶ディスプレイ(LCD)用光学フィルムとして、東レのポリエステルフィルム“ルミラー”及びその加工品が採用。



< LCD用ポリエステルフィルムのサプライチェーン >



IT関連機器の拠点である日本・韓国で、積極的な設備投資を実施するとともに次世代材料の開発を推進。

日本・韓国での積極的な設備投資

東レセハン(TSI)

フィルム加工 8,400万m²(06年3月稼働開始)
光学PETフィルム 13,200トン(07年上期稼働予定)
COF用2層基板フィルム 70万m²(07年10月稼働予定)

STEMCO(三星グループとの合併事業)

TAB・COFテープ 生産能力72%増(07年3月稼働)



韓国

東レ

光学PETフィルム 改造による増能(06年9月以降随時)
PDPペースト 2,700 5,160トン(07年6月第1期稼働予定)
LCP樹脂 1,000 2,000トン(07年12月稼働予定)

東レフィルム加工(TAF)

COF用2層基板フィルム 100 120万m²(06年4月稼働開始)

MPDP(松下電器との合併事業)

PDPパネル・TV(第4工場) 600万台(07年7月稼働予定)
PDPパネル・TV(第5工場) 1,200万台(09年5月稼働予定)

*生産能力は全て年産

次世代材料の開発

<電子部品・半導体材料>

- ・300mm向けCMP研磨パッド
- ・次世代半導体用低温硬化ポリイミド
- ・ウエハレベル方式半導体実装用接着シート
- ・次世代COF実装技術、等

<FPD材料>

- ・LCDバックライト用機能統合フィルム、等

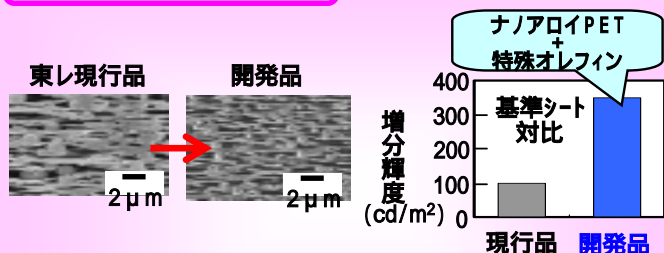
<その他>

- ・有機EL関連材料、等

IT関連先端材料・機器の開発を推進するとともに、先端材料の新規事業化に注力

ディスプレイ材料(例)

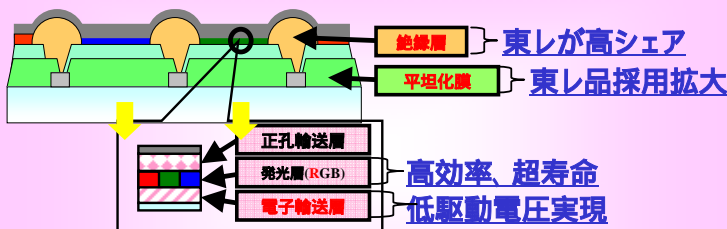
高性能反射フィルム



オレフィンをマイクロからナノレベルでアロイ化、分散制御することで、最適な気泡構造を形成することに成功。

世界最高レベルの輝度を実現

有機EL関連材料



トップシェアの絶縁層材料と発光材料、平坦化材料で総合的な展開を推進

電子部品・半導体・回路材料(例)

・半導体用ポリイミドコーティング材料の拡販

最先端ポジ型の拡販

東レポジ型シェア
07年37% 10年52%

・最先端の微細加工技術(“FORCE”)を開発。LCD駆動IC実装材料でのリーディングポジションを維持

ピッチ(μ m)	40	30	25	20	15	東レ対応製品
寸法許容幅(%)	± 0.04		± 0.02		± 0.01	
TCP技術	[Progress bar]					TAB用
従来COF技術	[Progress bar]					高レスピット加工
改良COF技術(新規エッチング技術)	[Progress bar]					“メタロイヤル”
新規技術	[Progress bar]					東レが得意なFORCE

機器(例)

液晶カラーフィルター用G5サイズ以上のスリットコータでの実績は業界ナンバーワン

2008秋の納入を目指して、G10コータの設計に着手

インクジェット法カラーフィルター塗布装置の開発

2006年インクジェット塗布試験開始(7.5G)

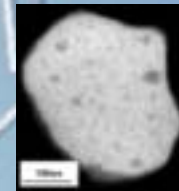
2008年度にパイロット設備設置

2009年度に生産機の受注を目指す

インクジェット材料の開発(BM、RGBインク)



自動車・航空機 / 炭素繊維複合材料

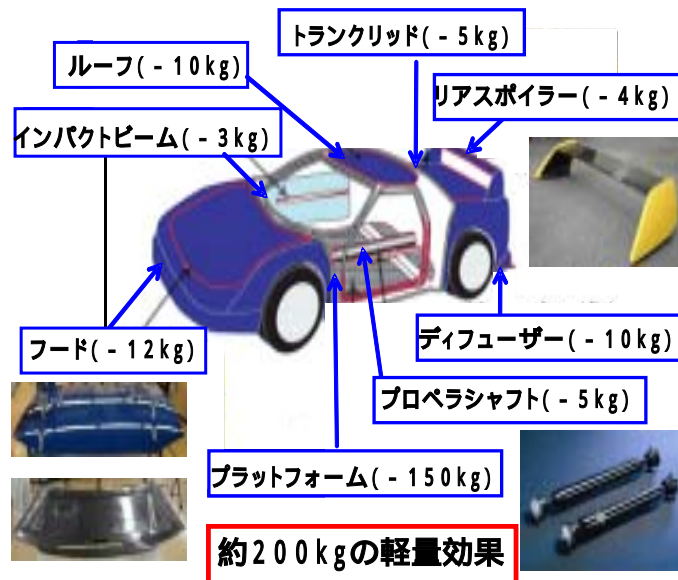


SBU体制(自動車材料戦略推進室設立)で、炭素繊維複合材料、エンブラの機能拡大による使用部位の拡張、ハイブリッドカー、カーエレクトロニクス市場の拡大に対応した製品開発、を推進。オートモーティブセンター設置により、開発促進。

次世代自動車への展開



CFRP(炭素繊維強化樹脂)化で約50%の軽量化効果が期待

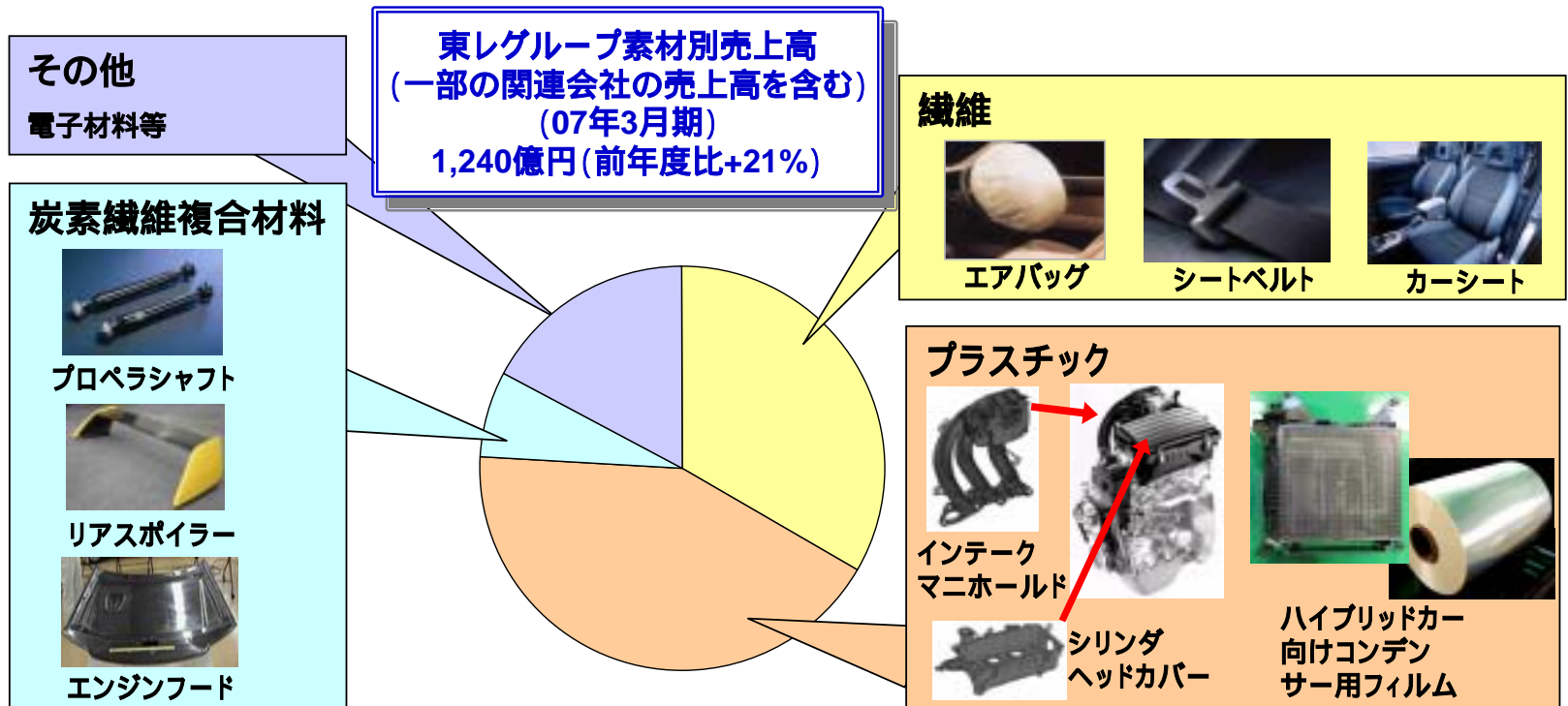


CFRP適用部位と軽量化効果

()内数値はスチール品との比較、リアスポイラーのみABS樹脂との比較

自動車・航空機 (自動車)

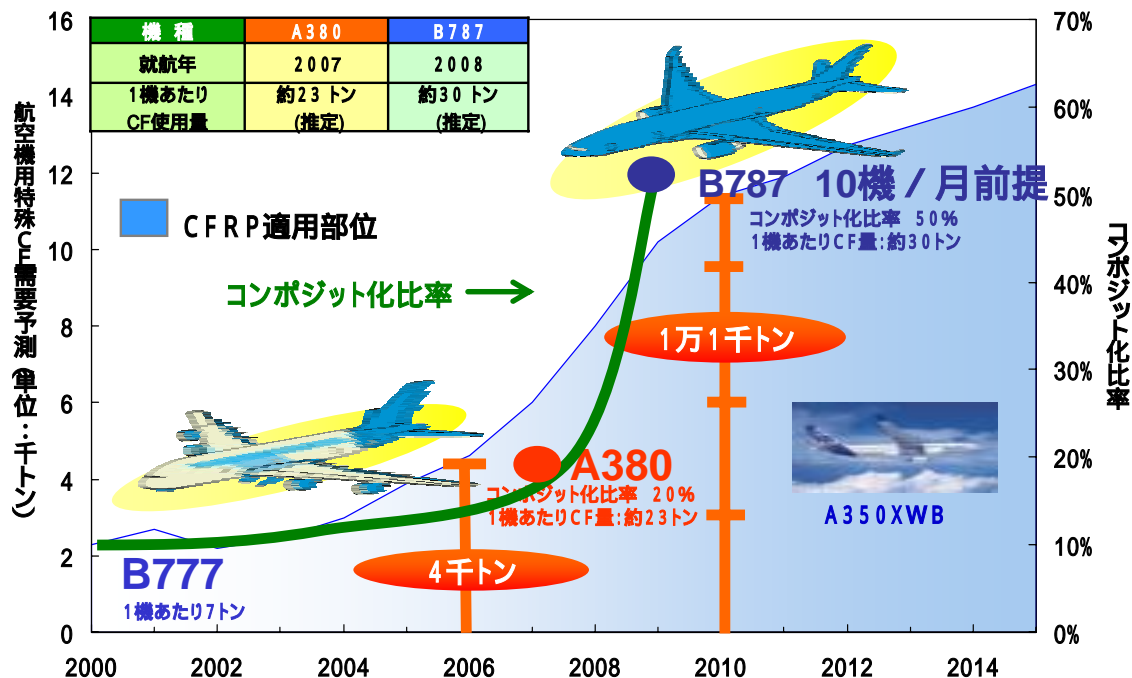
自動車の軽量化・安全性・カーエレクトロニクス化に対応する、東レグループの自動車関連事業は、日系自動車メーカーを中心に順調に売上を拡大している。



自動車分野のグループ売上高を2015年度に3,500億円に拡大する計画。

自動車・航空機 (航空機)

B787の本格生産開始により、航空機用途の需要拡大が本格化。



就航年	1995	2007	2008	2013
機種	B 777	A380	B 787	A350XWB
構造材種	一次構造材 二次構造材	一次構造材 二次構造材	一次構造材 二次構造材	一次構造材 二次構造材
東レ供給製品	炭素繊維プリプレグ	炭素繊維 炭素繊維プリプレグ (プリプレグ-経由)	炭素繊維プリプレグ 炭素繊維織物	炭素繊維プリプレグ 炭素繊維織物 (予定)

自動車・航空機

名古屋事業場に自動車・航空機材料開発センター(A & Aセンター)を設立。自動車向け技術開発拠点「オートモーティブセンター(AMC)」と、コンポジット技術開発拠点を新設し、既存の樹脂応用開発センターとともに、自動車・航空機用先端材料の総合開発拠点として強化・拡充する。

自動車・航空機材料開発センター(A & Aセンター)

自動車向け技術開発拠点
「オートモーティブセンター(AMC)」新設
2008年6月開所予定



オートモーティブセンター完成予想図

コンポジット技術開発拠点新設

樹脂応用開発センター(既存)

名古屋事業場を
自動車・航空機向け
先端材料開発の
拠点として
強化・拡充

自動車・航空機向け
の樹脂・コンポジット・
高機能ケミカル製品
の各生産体制を順次
構築

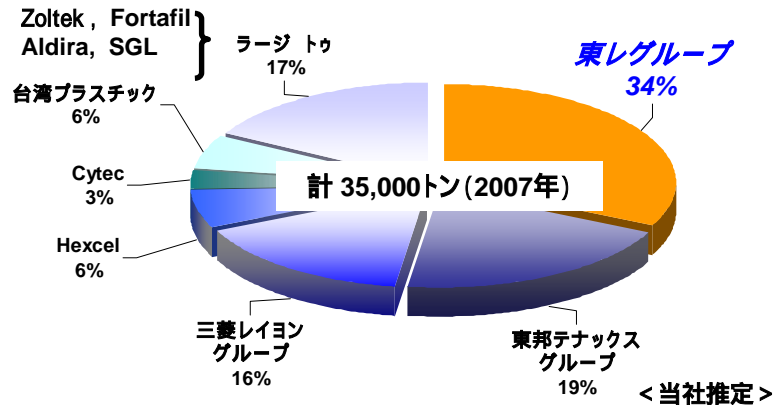
自動車・航空機向け事業の売上高:
2006年度実績: 1,460億円

2015年度: 5,000億円に拡大する計画

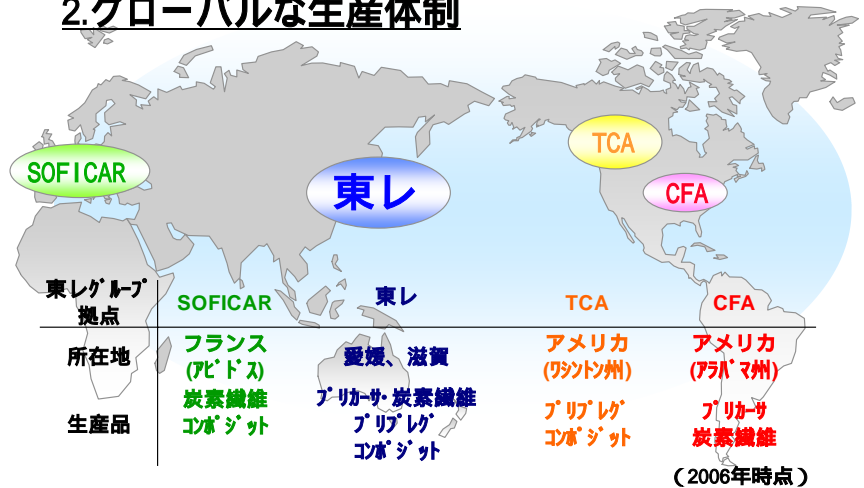
炭素繊維複合材料

東レグループは、質・量共に世界No.1の炭素繊維複合材料メーカー

1. 世界トップシェア



2. グローバルな生産体制



3. 炭素繊維ビジネスの垂直展開



4. 航空機用途における強固なポジション

- ・売上高の約40%が航空機用途
- ・25年に及ぶ航空機向けプリプレグの生産実績
- ・B787の一次構造材のソールサプライヤーとして認定される。

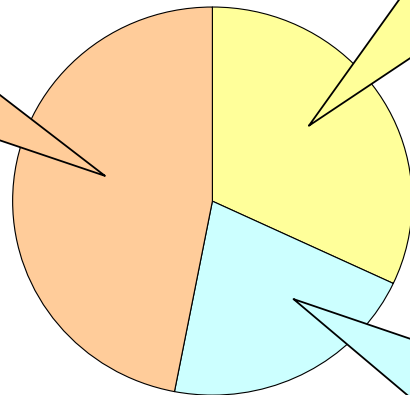
炭素繊維複合材料

航空宇宙、スポーツ、一般産業の各用途で東レはトップメーカーであるが、東レ“トレカ”は、特に 航空機用途のウエイトが高く、この用途を中心に急伸長しつつある。

一般産業用途
(47% 321億円)

自動車部材
大型建築物 海底油田部材
パソコン管体 風車 CNGタンク
船舶

東レグループ用途別
売上高比率
(07年3月期)

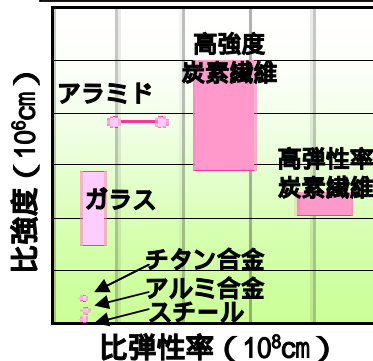


航空宇宙用途 (32% 222億円)
* 炭素繊維使用の民間航空機

ボーイング777 エアバスA380 ボーイング787

スポーツ用途 (21% 143億円)

釣り竿
ゴルフシャフト
ホッケースティック
テニスラケット
自転車



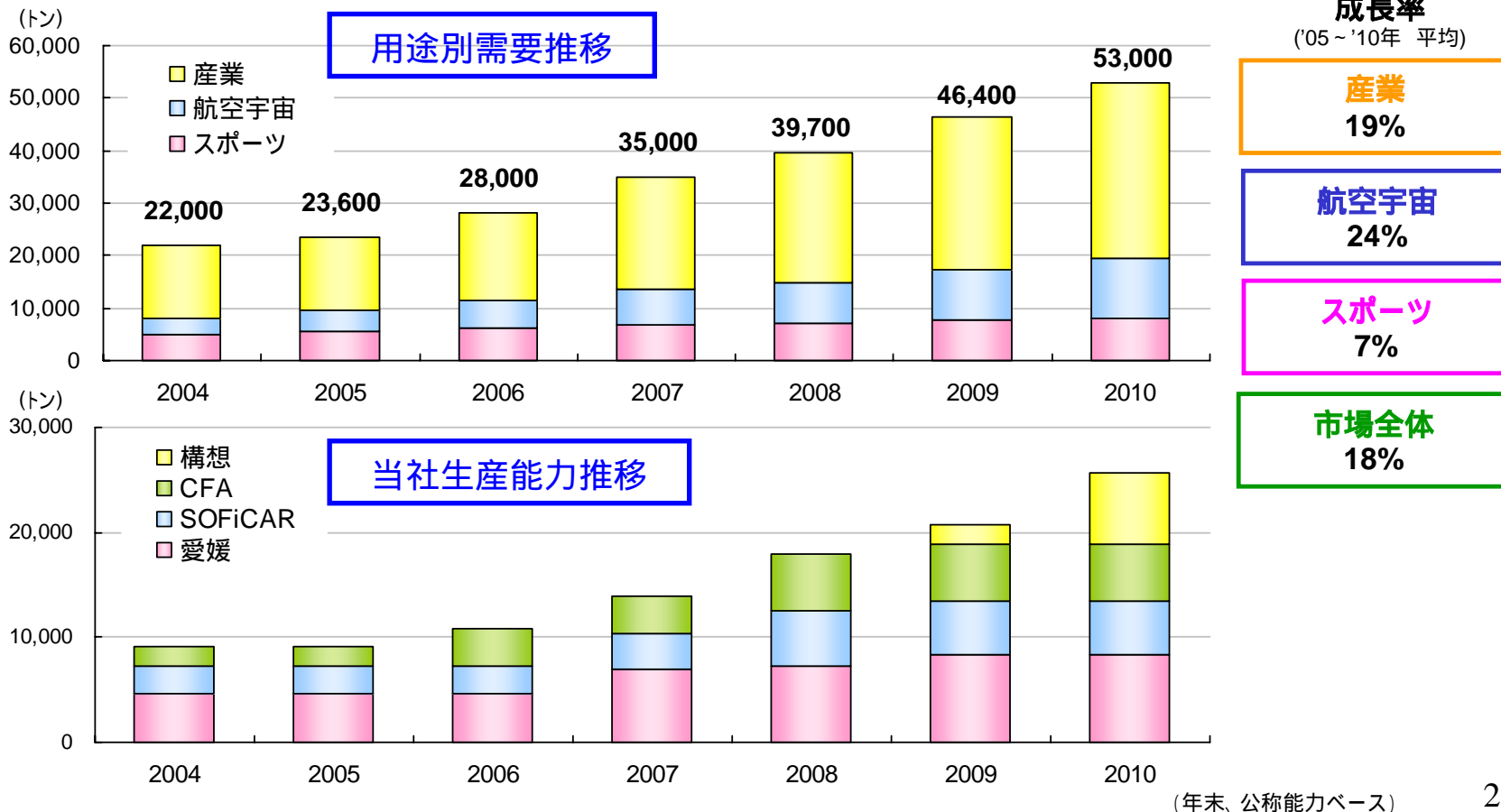
炭素繊維複合材料の特長

- ・軽い・・・比重は鉄の1 / 4
- ・錆びない
- ・強い・・・比強度は鉄の10倍

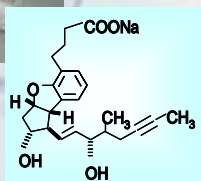
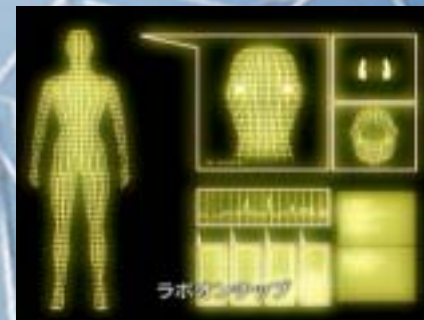
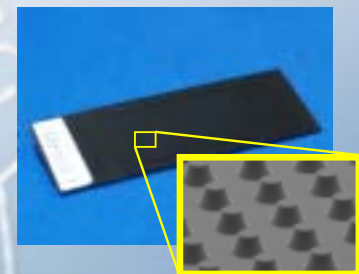
・その他
X線透過性、耐薬品性、耐熱性、耐低温性、etc
繊維状である(加工性)

炭素繊維複合材料

航空機需要の更なる拡大に加え、原油価格高騰による石油代替エネルギー関連用途（CNGタンク、風車など）、自動車用途での需要増、自転車用途の急拡大等により、2010年迄の炭素繊維市場の年成長率は約18%に達する見通し。この需要拡大に対応し、積極的な設備投資を継続する。



ライフサイエンス



ライフサイエンス

医薬品・医療材・バイオツール事業を展開。 開発中新薬の確実な上市と更なる新薬パイプラインの拡充、 高付加価値医療材料の開発・上市、 バイオ・ナノテクノロジーの融合による、革新的バイオツールの創出、等により事業拡大を進める。

医薬

創薬研究開発型

- ・分野を特化した大型新薬の創出
- ・現行製品：フェロン、ドルナーの育薬



フェロン

C型代償性
肝硬変
効能追加
(07年12月～)



ドルナー-(BPS)



ケアロードLA
(07年12月～)

医療材

体外循環中心

- ・開発中次期人工腎臓の上市
- ・現製品ライン周辺の集中開発



トスルホン



トレライト
(06年4月～)



トレミキシン

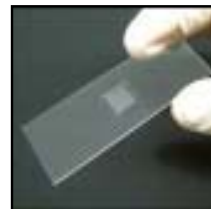


イノウエハルーン
カテーテル

バイオツール

バイオ・ナノ融合 革新的バイオツールの創出

- ・検査診断事業への拡大
アライアンスによるビジネスモデル構築
- ・コンテンツ獲得(有力医療機関との連携)



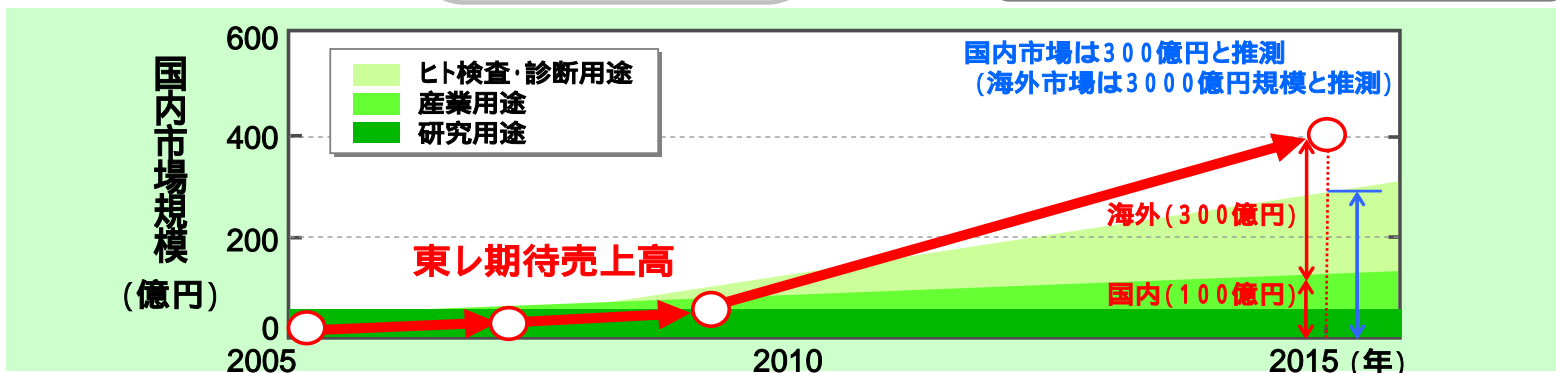
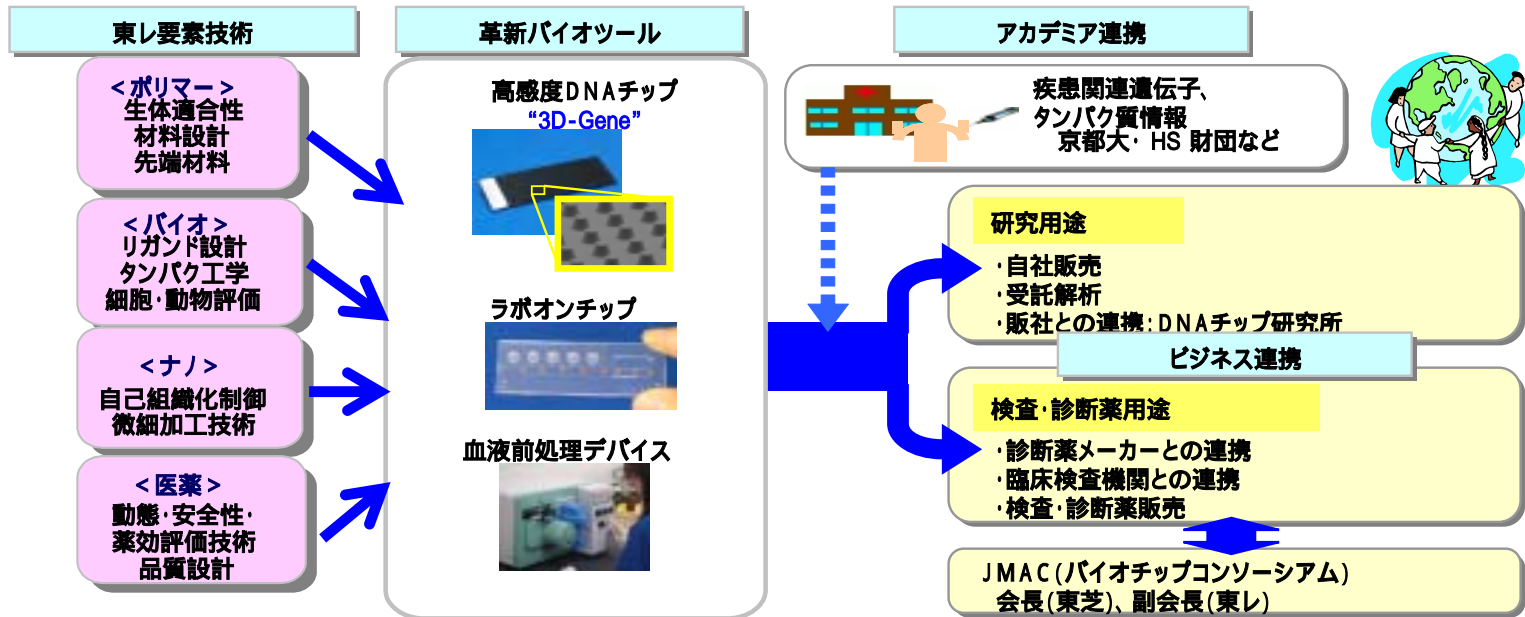
高感度DNAチップ(感度従来品の100倍)

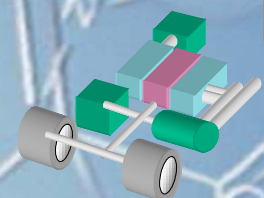
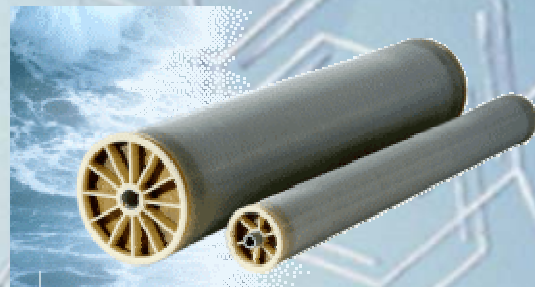
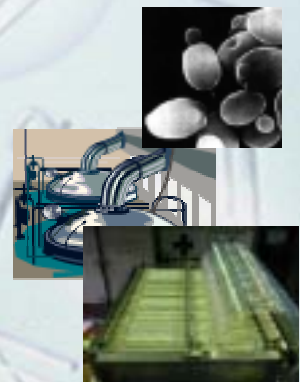
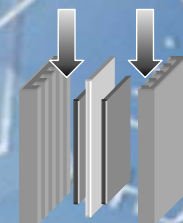
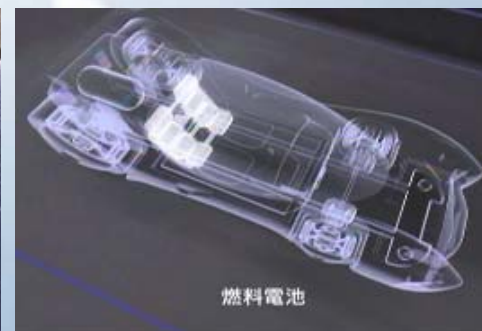
酵母用:酵母用全遺伝子搭載チップ
(06年6月～)

ヒト用:メタボリックシンドローム
関連遺伝子搭載チップ(06年12月～)
他

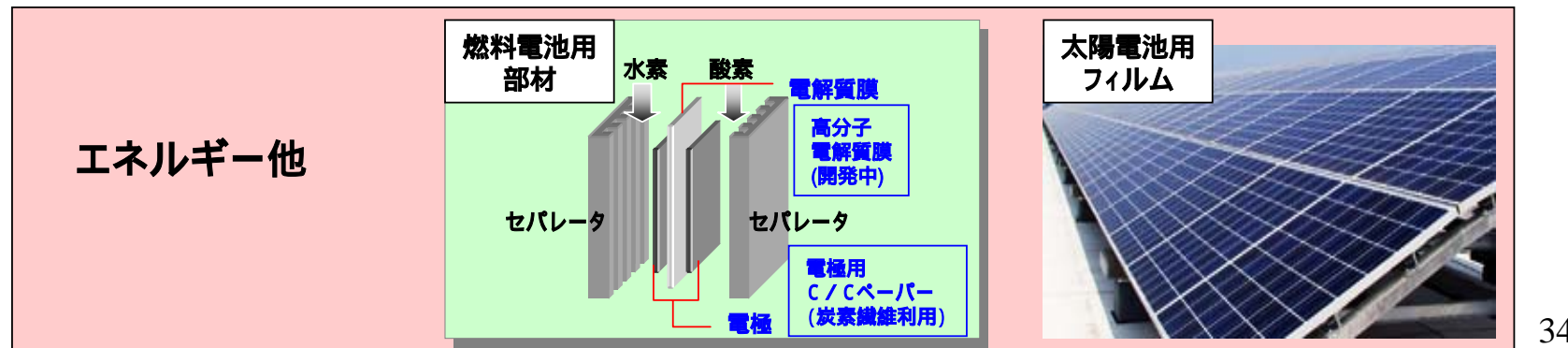
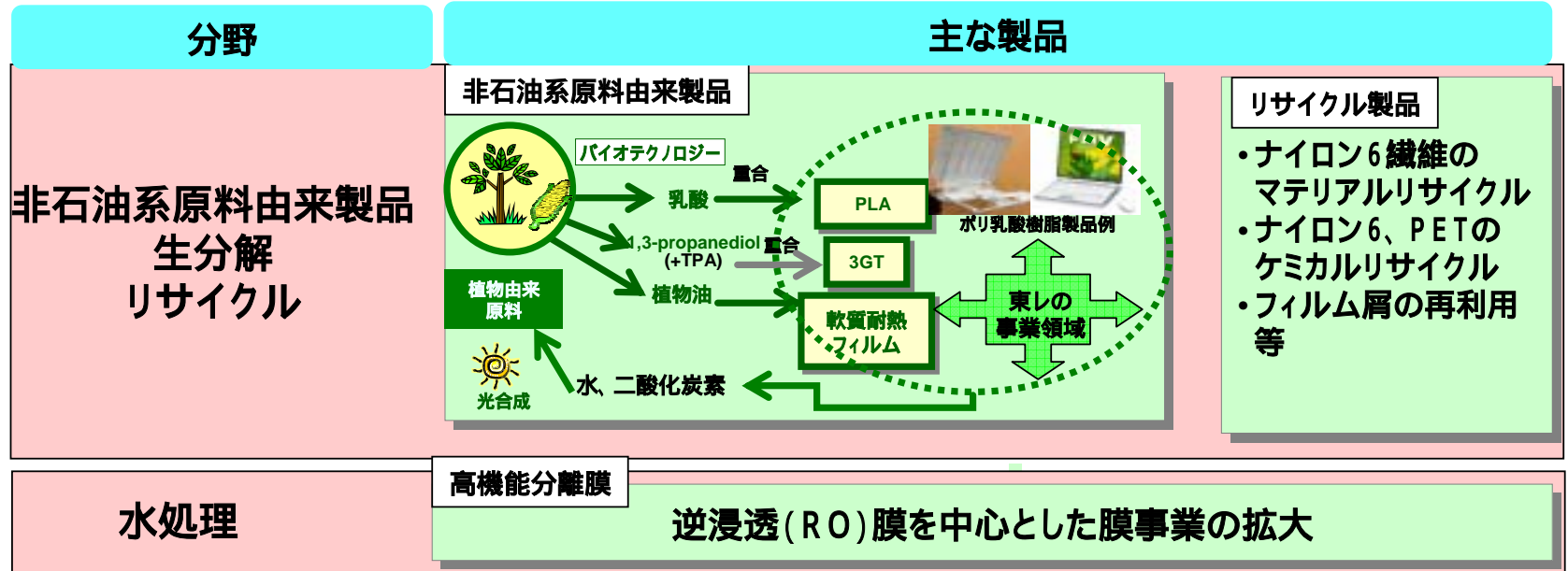
ライフサイエンス (バイオツール)

・特長ある東レ技術プラットフォームを構築
 ・テーラーメイド医療のトレンドに沿った製品群開発(様々なコンテンツ搭載) → 2015年売上高 400億円を目指す





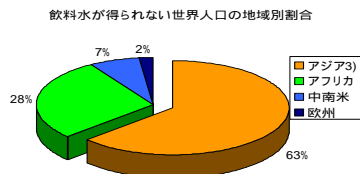
環境・リサイクルへの取り組みを強化するとともに、ポリ乳酸(PLA)などの非石油系原料を使用した繊維、樹脂、フィルムの用途開拓を推進。



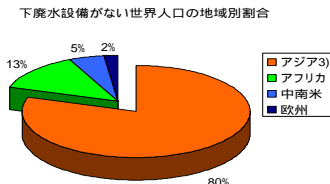
深刻化する水問題に対応し、全ての種類の高機能分離膜をラインアップ。

水環境問題の現状と水環境産業の使命

世界人口約6.5億人の内、
飲料水¹⁾が得られない1.1億人の
地域別割合



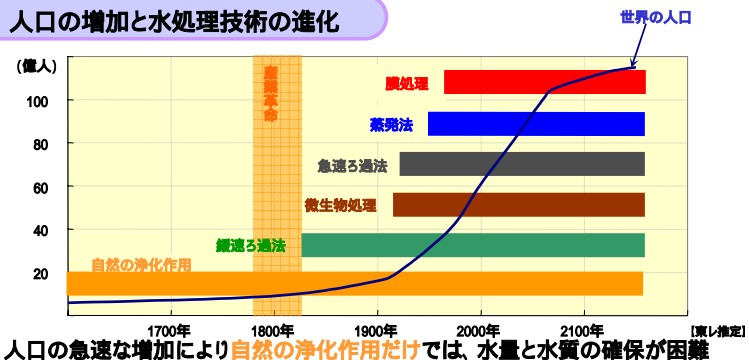
衛生設備²⁾がない2.4億人の
地域別割合



- ・今後、飲料水および衛生設備の膨大な市場が発生する
- ・アジアで、飲料水に6.9億人、衛生設備に19.2億人が困っている

1) 飲料水:生活用水を含む、2) 衛生設備:下廃水・尿尿処理、3) アジア:中東を含む

人口の増加と水処理技術の進化



高精度の水質制御と高速処理が可能な膜処理技術は、21世紀の必須技術

東レの膜製品

膜の種類	RO膜・NF膜	UF膜・MF膜	MF膜	MBR用浸漬膜
製品外観				
除去対象	イオン 溶解性有機物	濁質 バクテリア ウィルス	ごみ、錆び 残留塩素 鉛	濁質 バクテリア
用途	海水・かん水 淡水化 下廃水 再利用 超純水製造	飲料水製造 下廃水処理 RO膜 前処理 工業用水 製造	家庭用水 浄化	下廃水 処理・ 再利用

高性能膜(高ホウ素除去、低ファウリング)を武器に海水淡水化用途、下廃水再利用用途で逆浸透膜(RO膜)を展開し、大型プラントからの受注に成功

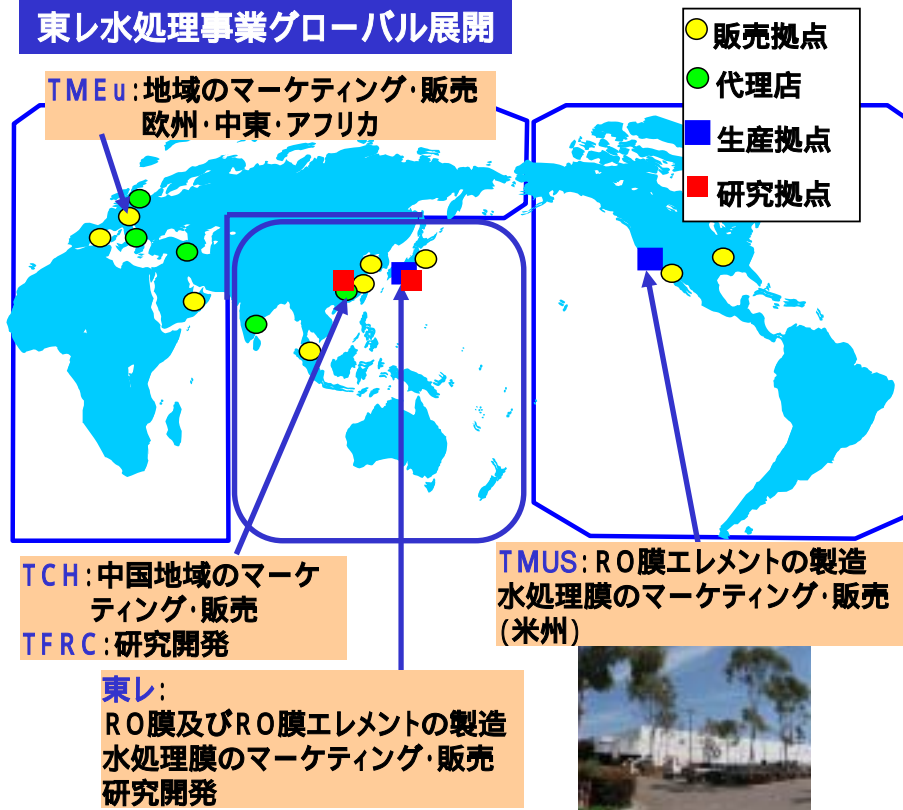
当社がRO膜を受注した主な水処理プラント

稼働年 (⁽¹⁾)	国名	設置場所	造水量 (m ³ /日)(⁽²⁾)	原水別用途
2009	サウジアラビア	シュアイバ	150,000	海水淡水化
2008	アルジェリア	ハンマ	200,000	海水淡水化
2008	オーストラリア	ラゲージポイント	66,000	下水再利用
2007	マルタ	マルタ	53,500	海水淡水化
2007	イスラエル	パルマシム	92,250	海水淡水化
2006	米国	コリア郡(フロリダ)	45,000	かん水淡水化
2006	中国	玉環	34,600	海水淡水化
2006	中国	天津	30,000	下水再利用
2005	クウェート	スレビヤ	320,000	下水再利用
2005	シンガポール	チュアス	136,000	海水淡水化
2005	中国	東莞	25,000	かん水淡水化
2004	シンガポール	セレーター	24,000	下水再利用
2002	トリニダード・トバゴ	ポイント・リサ	136,000	海水淡水化
2002	スペイン	アリカンテ	65,000	海水淡水化
2001	イラン	ファジュール	100,000	かん水淡水化
2001	韓国	大山	80,000	かん水淡水化
2001	スペイン	マヨルカ	69,300	海水淡水化
2001	韓国	水原	60,000	かん水淡水化
2001	韓国	瑞山/三星総合科学	25,000	かん水淡水化
2000	サウジアラビア	アル・ジュベール	90,909	海水淡水化
1997	韓国	大山/現代石化	84,000	かん水淡水化
1997	日本	沖縄	40,000	海水淡水化
1997	スペイン	アデハ・アロナ	22,000	海水淡水化
1994	スペイン	マスパロマス	22,000	海水淡水化
1989	サウジアラビア	アル・ラス	36,000	かん水淡水化
1989	サウジアラビア	アル・ブカリヤ	36,000	かん水淡水化

(*1)プラント稼働開始年。なおカッコ()内は建設中。

(*2)造水量はプラント全体の造水能力

東レ水処理事業グローバル展開

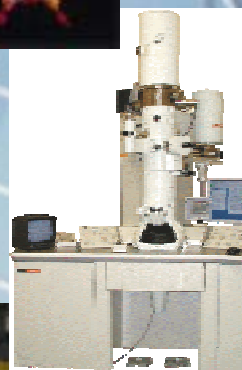
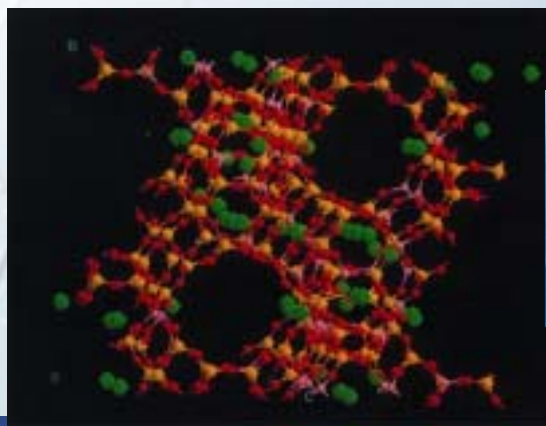


- ・水処理膜用逆浸透膜及びエレメントの生産能力を愛媛・米国で従来の1.8倍に増強(米国4月稼働、愛媛11月稼働予定)
- ・東レは、カリブ、地中海、中東、東アジアと各主要市場で10万m³/日以上の巨大海水淡水化プラント案件を受注した唯一のRO膜メーカー

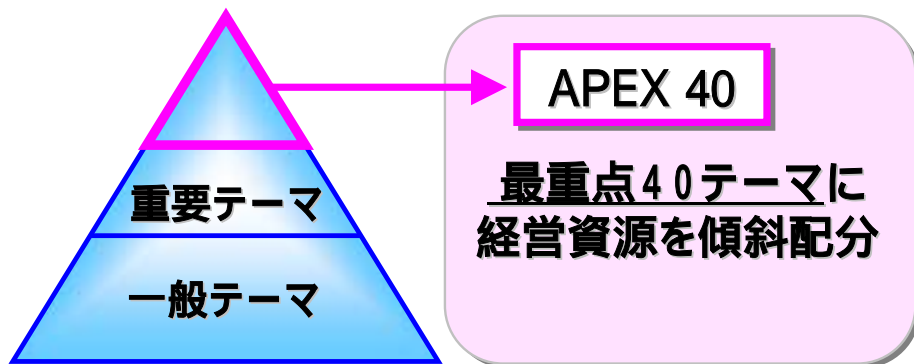
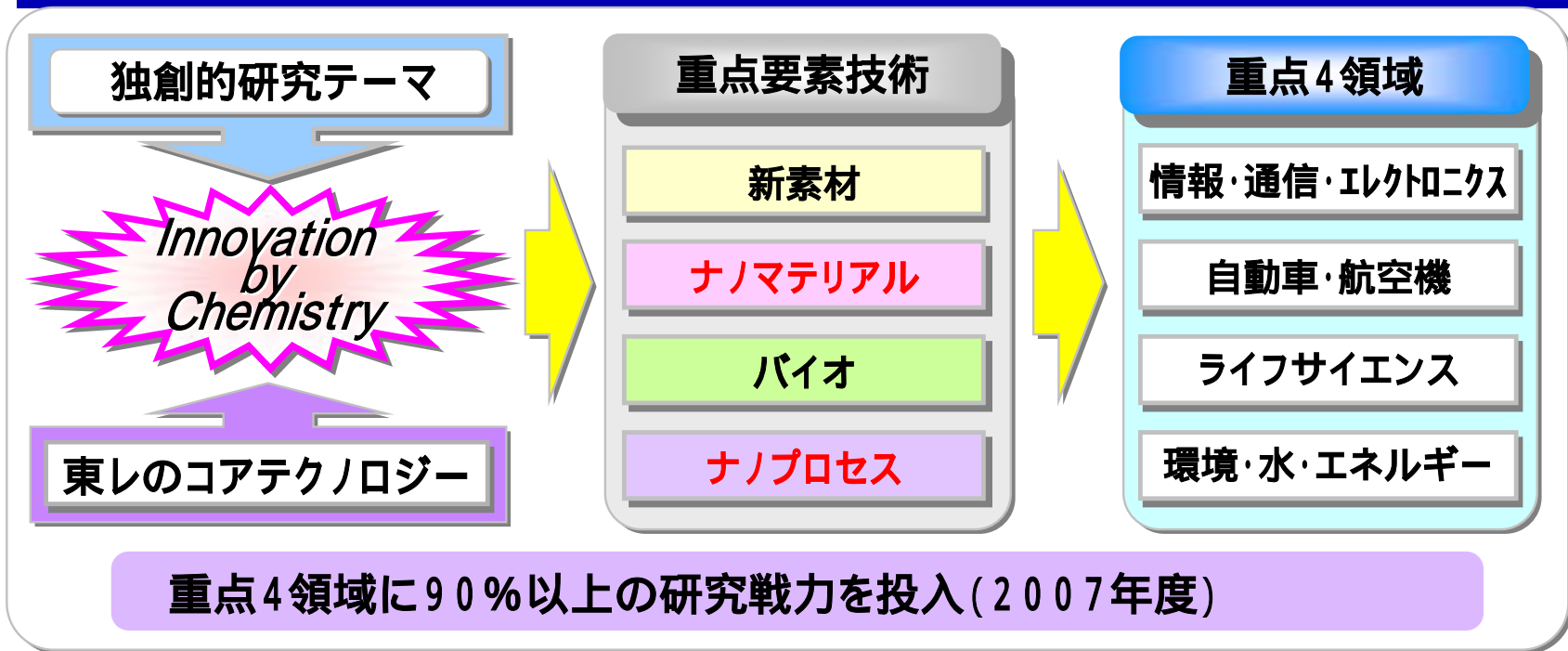
東レグループの研究開発

R&D 研究開発

東レグループは科学技術に立脚した基礎素材メーカーとして、
独創性の高い先端材料・先端技術の研究開発に
取り組んでいます。



東レの研究開発

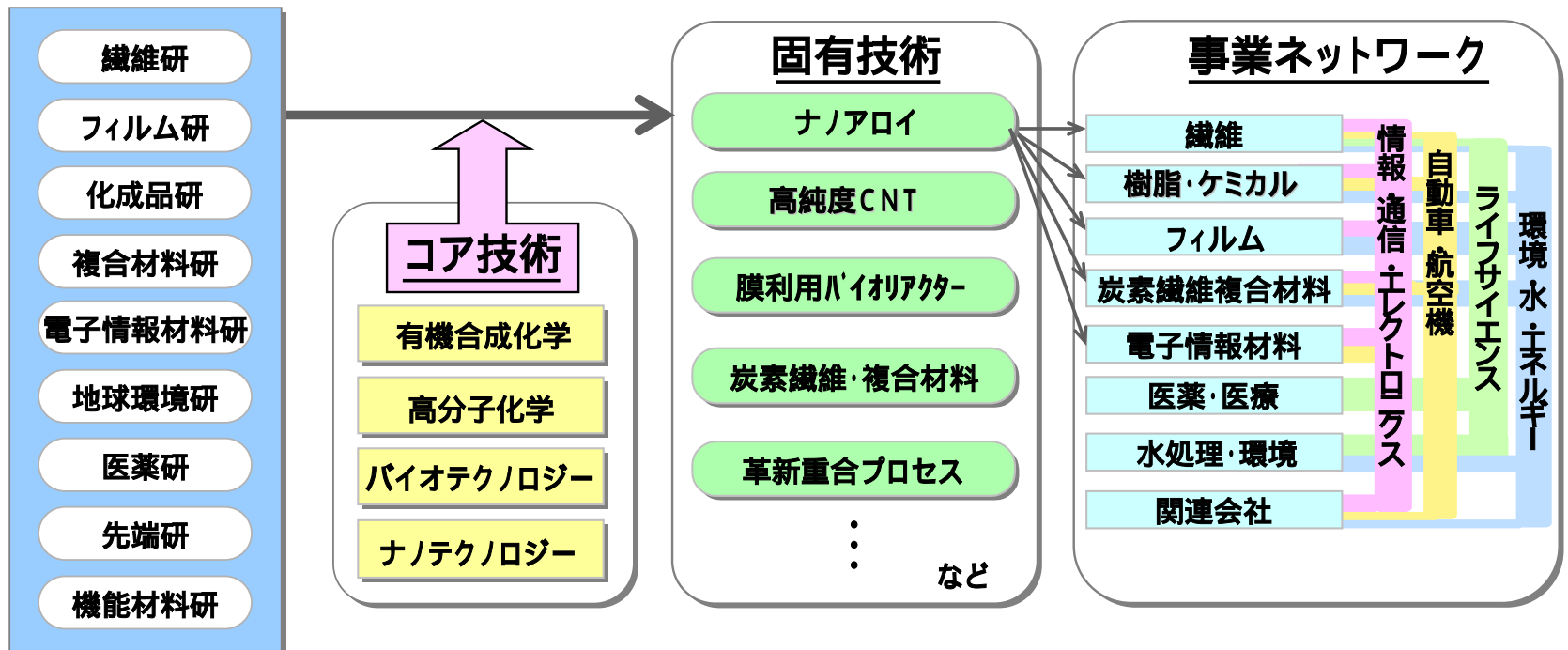


東レグループの研究開発の強み

強み

1. 革新技术を生み出す土壌・歴史：基礎研究の重視
2. 多くの分野の専門家集団
3. 分断されていない研究開発組織
4. 産官学連携研究をリード：約150件
5. 高い分析・解析力：東レリサーチセンター

技術融合



革新と創造の経営による新たな飛躍への挑戦

企業理念:「わたしたちは**新しい価値の創造**を通じて**社会に貢献**します」

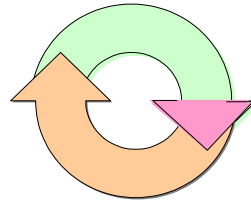
革新と創造の経営

革新と創造

事業構造のInnovation
技術のInnovation

競争と連携

競争力のInnovation
意識のInnovation



社会との対話と協同

C S RのInnovation
(企業の社会的責任)

重点4領域での先端材料の拡大

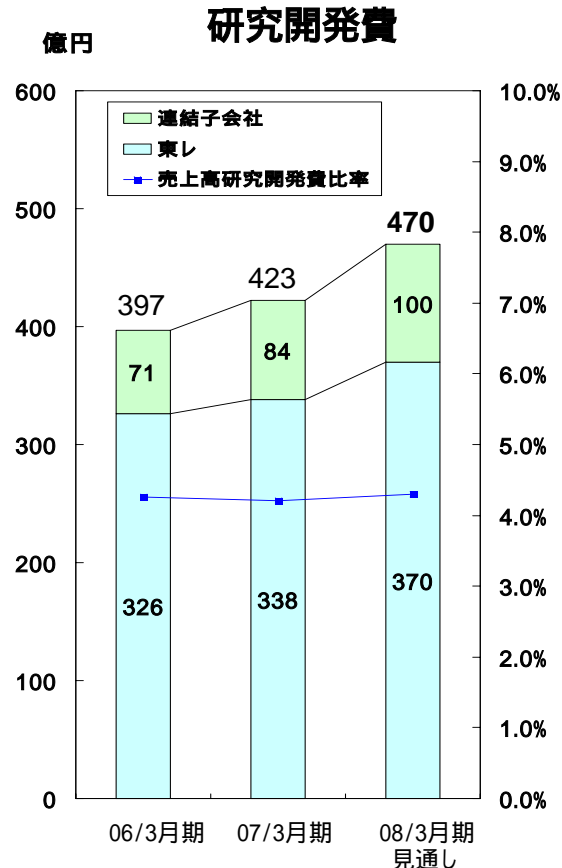
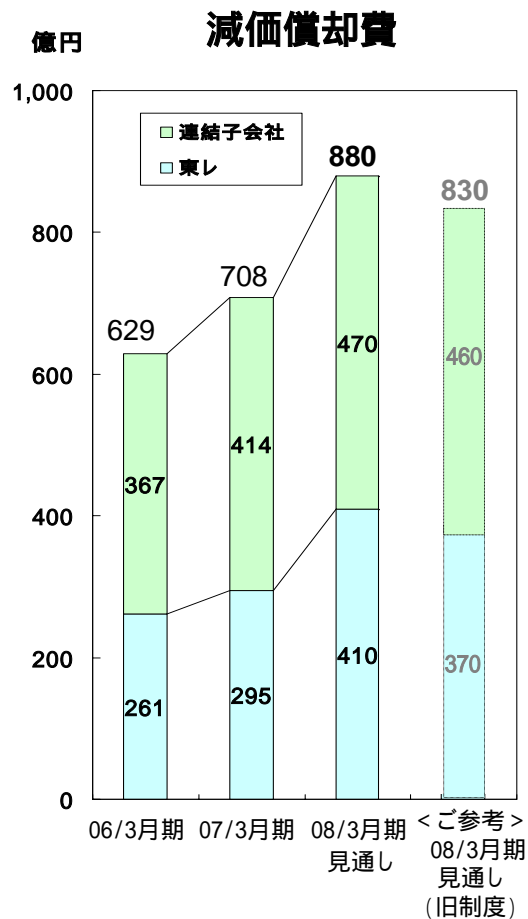
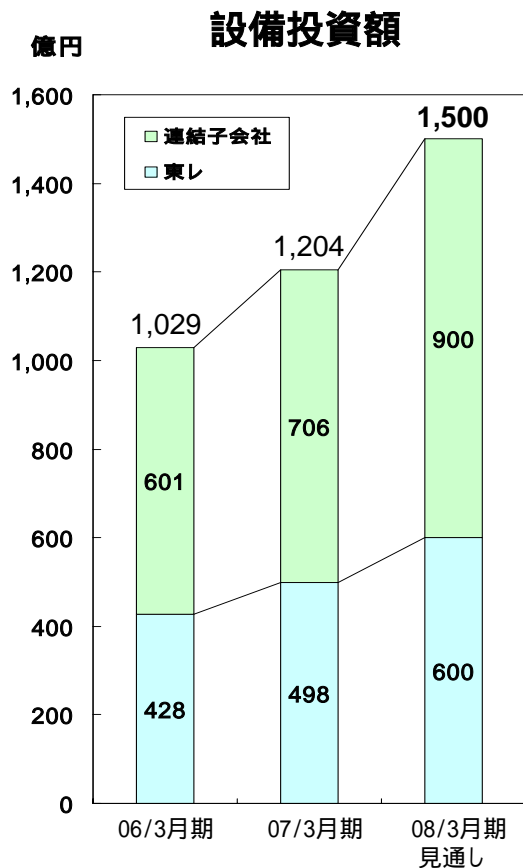
新たな飛躍への挑戦

先端材料で世界のトップ企業を目指す



参考情報

設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し

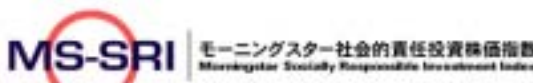


* 売上高研究開発費比率は下記商事子会社を除くベース

<国内> 東レインターナショナル(株), 蝶理(株), 一村産業(株), 丸佐(株), 東レアイ-フ(株)等
<海外> TOMAC(アメリカ), TEL(UK), TCH・THK(中国)等

SRI(社会的責任投資)インデックスへの採用

環境をはじめとしたCSR(企業の社会的責任)に積極的な企業を選び、投資を行うSRIの代表的なインデックスに東レは採用され、各種SRIファンドにも組み入れられています。



DJSI World : 世界の企業2,500社を対象に、「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業を評価し、業種毎に上位10%の企業を採用する。2007年は、世界318社が採用され、東レが区分されている化学業種では日本から東レが唯一採用。

モーニングスター社会的責任投資株価指数：モーニングスター株式会社が国内上場企業の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化した国内初の社会的責任投資株価指数

KLD Global Climate 100SM Index: 地球温暖化を防止し、気候変動を解決する長期的ソリューションを有する世界企業100社から構成されるグローバル株式インデックス

SRIファンドへの東レ株式の採用状況

(順不同)

注:本リストは2007年3月31日時点で、それ以前の1年間に各社が発行した最新の運用目論見書・運用報告書について当社が調査したものであり、それぞれのファンドにおいて、その後も継続して当社株式が採用されていることを保証するものではありません。

ファンド名	愛称	運用会社
朝日ライフSRI社会貢献ファンド	あすのはね	朝日ライフアセットマネジメント(株)
AIG/りそな ジャパンCSRファンド	誠実の杜	AIG投信投資顧問(株)
AIG-SAIKYO 日本株式CSRファンド	すいれん	AIG投信投資顧問(株)
AIG-ひろぎん 日本株式CSRファンド	クラスG	AIG投信投資顧問(株)
しんきん SRIファンド		しんきんアセットマネジメント投信(株)
フコクSRI(社会的責任)ファンド		しんきんアセットマネジメント投信(株)
地球力		新光投信(株)
STAM SRI・ジャパン・オープン(SMA専用)		住信アセットマネジメント(株)
住信 SRI・ジャパン・オープン	グッドカンパニー	住信アセットマネジメント(株)
住信 日本株式SRIファンド		住信アセットマネジメント(株)
すみしん DCグッドカンパニー		住信アセットマネジメント(株)
ダイワ・エコ・ファンド		大和証券投資信託委託(株)
ダイワSRIファンド		大和証券投資信託委託(株)
日興エコファンド		日興アセットマネジメント(株)
年金積立エコファンド	DCエコファンド	日興アセットマネジメント(株)
日本SRIオープン	絆	日本投信委託(株)
モーニングスターSRIインデックスオープン	つながり	野村アセットマネジメント(株)
エコ・バランス	海と空	三井住友アセットマネジメント(株)
エコ・パートナーズ	みどりの翼	三菱UFJ投信(株)
三菱UFJSRIファンド	ファミリー・フレンドリー	三菱UFJ投信(株)

2007年のトピックス

発表時期	トピックス
‘07年1月	PDP国内第5工場を兵庫県尼崎市に建設
1月	東レの逆浸透膜、地中海沿岸の海水淡水化プラントで相次いで受注
1月	世界初、衝撃吸収プラスチックを開発
2月	次世代半導体保護膜向け低温硬化型感光性ポリイミドを開発
2月	炭素繊維 日米仏3拠点で4,000トン増設 国内では石川県にプリプレグ生産の新拠点
2月	温室効果ガスの削減取り組みを加速 国内2工場で燃料転換 CO2排出量を年間10万トン削減
4月	ユニクロ社・東レ パートナーシップ提携後初の共同開発商品が誕生
5月	植物繊維強化ポリ乳酸(PLA)プラスチックを開発
5月	汚染物質分解微生物検出用超高感度DNAチップを開発
5月	無色透明アラミドフィルムの開発
6月	水処理用逆浸透(RO)膜およびエレメントの生産能力増強

2007年～2008年のトピックス

発表時期	トピックス
‘07年7月	汚れに強いPVDF製新規中空系UF(限外ろ過)膜モジュールを開発
8月	C型肝炎ウイルス(HCV)のワクチン開発に成果
8月	感光性ポリイミドコーティング剤“フォトニース”ポジ型タイプの生産設備増強
9月	Dow Jones Sustainability Index World に採用
10月	名古屋に「オートモーティブセンター」を設置
10月	ユニクロ・東レ 戦略提携商品第二弾 更に進化したヒートテックシリーズ発売
10月	「肺動脈性肺高血圧症」治療薬“ケアロード®LA錠 60 μ g”の承認取得
12月	サウジアラビアの大型海水淡水化プラント向け逆浸透膜を受注
12月	液晶ディスプレイ用高性能反射フィルムの開発 - ナノテクを駆使して、世界最高の反射性能を実現
12月	「肺動脈性肺高血圧症」治療薬“ケアロード®LA錠 60 μ g”新発売
12月	オーストラリアの大型下廃水リサイクルプラント向け逆浸透膜を受注
‘08年2月	欧州で高機能ハイバリアフィルムを事業化 - フランスに新会社設立
2月	PAN系炭素繊維“トレカ”の生産体制増強 - 愛媛で特殊細物炭素繊維を増産

東レグループに関する情報について

東レグループに関する、プレスリリース、製品・サービス、研究・技術開発、CSR、株主・投資家情報、会社情報等については、東レグループのホームページをご覧ください。

株主・投資家情報のコーナーでは、「個人投資家の皆様へ」というコーナーも設けており、東レグループの経営戦略、事業内容等について、より分かりやすくご説明しています。

東レグループホームページURL

<http://www.toray.co.jp>

IRに関するお問い合わせ

東レ株式会社 IR室

電話：03 - 3245 - 5113 FAX：03 - 3245 - 5459

ホームページ「お問い合わせ」からもお問い合わせいただけます。

<http://www.toray.co.jp/ir/contact/index.html>

- **本資料は、東レグループの事業内容等に関する情報の提供を目的とするものであり、当社株式への投資を勧誘するものではありません。**
- **本資料に記載した業績予想、見通し及び事業計画等は、資料作成時点において入手可能な情報に基づく東レグループによる仮定及び判断に基づくものであり、その正確性および完全性を保証し、また約束するものではありません。**
- **業績予想、見通し及び事業計画等は、今後予告なく変更されることがあります。**